

Q10

今後注意することは？

いつまで注意を続けなければいけないか？

上記余震について解説したとおりです。本震直後が最も余震が起きやすく、その後急激に数が減ります。しかし、体を感じる余震が少なくなったからといって余震活動が終わったわけでは無く、大きな余震やM7級の地震が発生しないわけではありません（熊本地震のように余震のほうの結果的に大きくなり、そちらを本震と呼び、前のものは前震と人為的に定義される）。ただし、M7超の地震はそれなりに大きな断層（長さ20km以上）から発生しますので、今回の余震域周辺にそのような断層があるかどうかは鍵になります。

いずれにしても、海域の断層に関する情報は不十分なので、今回同様に津波をとまなう浅い地震が再び起きる可能性はあります。一方で、海溝を隔ててさらに沖合では沈み込む太平洋プレート内で正断層型の大地震（アウターライズ地震）の可能性ががあります。その場合はM8級になることも考えられ、大津波も発生します。今後も津波に警戒しなければなりません。

（災害理学研究部門 遠田晋次教授）

今回揺れの強かった地域の周辺では、今回の地震の震源域周辺で余震が発生していますので、揺れや津波に対する安全に留意した行動が必要です。今後の推移については、気象庁から逐次発表される情報を参考にしてください。また、2011年東北沖地震後の活動期は続いていますし、熊本地震などが示す通り他地域でも大きな地震が発生する可能性がありますから、普段（不慮）の備えが必要です。

（災害理学研究部門 福島洋准教授）